

## 新しい総合計画の策定に関するアンケート調査結果（概要版）

### 1. 調査の目的

新しい総合計画の策定に向け、帯広市の魅力や将来のまちづくりの方向性などについて、市民等から広く意見を聴き、今後の取り組みの参考とするために実施した。

### 2. 調査の概要

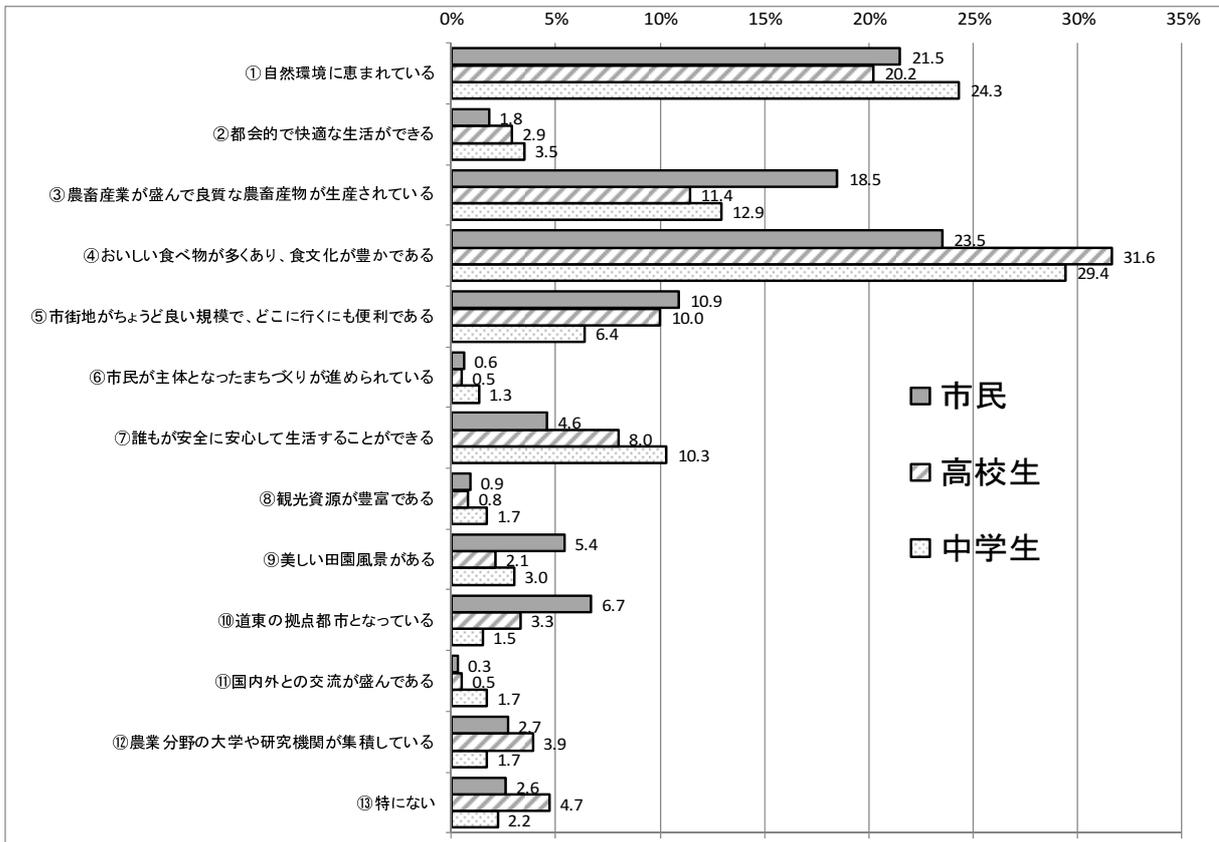
	市民アンケート調査	高校生アンケート調査	中学生アンケート調査
趣旨	帯広市の将来のまちづくりの方向性などについて、性別、年齢、居住地域等に偏りがないよう、広く意見を聴く	帯広市の将来のまちづくりの方向性などについて、これからのまちづくりを支える担い手である高校生から意見を聴く	帯広市の将来のまちづくりの方向性などについて、これからのまちづくりを支える担い手である中学生から意見を聴く
調査内容	帯広市の魅力、将来のまちづくりの方向性について など	同左	同左
調査対象	平成29年10月時点において、市内在住の満20歳以上の市民	帯広市内の高校8校 (帯広柏葉高校、帯広三条高校、帯広緑陽高校、帯広南商業高校、帯広農業高校、帯広工業高校、帯広北高校、帯広大谷高校)	帯広市内の中学校14校
対象者数	市民3,000人 (性別、年齢、居住地域等に考慮し無作為に抽出)	高校2年生320人程度 (上記8校において各1クラス(40人程度)を対象)	中学2年生400人程度 (上記14校において各1クラスを対象)
実施時期	平成29年11月6日～ 平成29年11月30日	平成29年11月13日～ 平成29年11月17日	平成29年12月6日～ 平成29年12月20日
調査手法	アンケート調査票を郵送	ホームルームの時間等を活用し実施	ホームルームの時間等を活用し実施
有効回答数	1,597人(回答率53.2%)	295人	383人
集計結果の表記	<ul style="list-style-type: none"> <li>各回答の割合(%)は、小数点第2位以下を四捨五入し、小数点第1位までを表記している。したがって、その合計値が100%にならない場合がある。</li> <li>未回答、不明分等は集計から除いている。</li> </ul>		

### 3. 集計結果

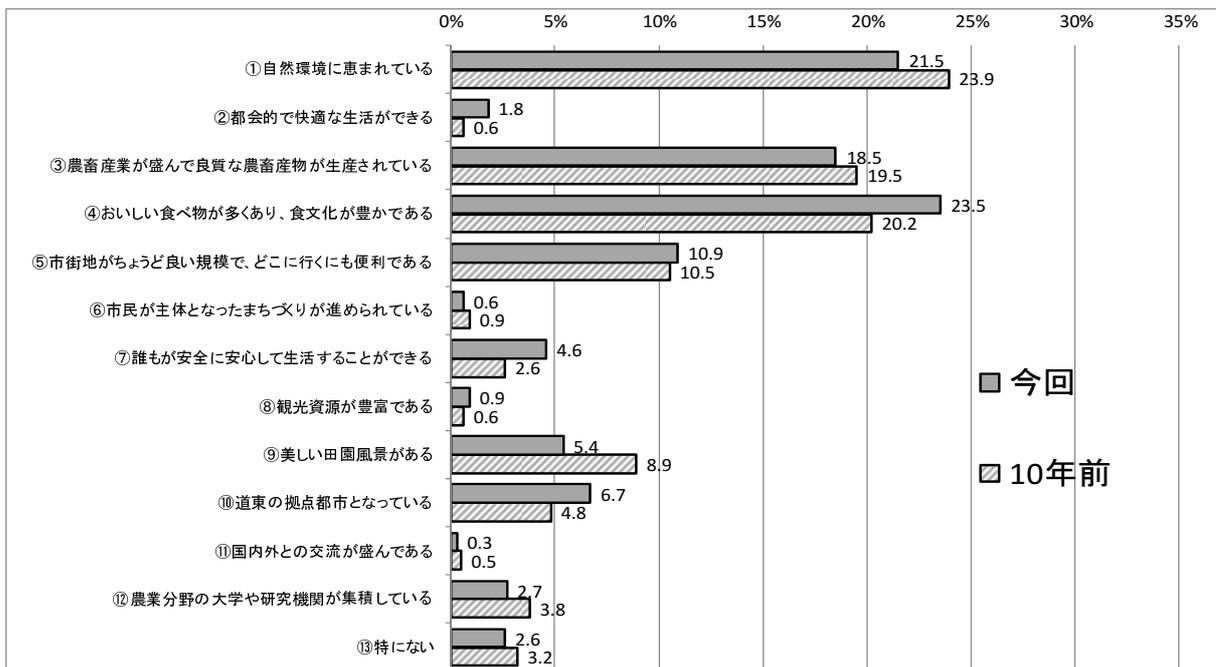
#### (1) 帯広市の魅力について

問 帯広市の魅力はどんなところだと思いますか。

・市民、高校生、中学生いずれも、「④おいしい食べ物が多くあり、食文化が豊かである」、「①自然環境に恵まれている」、「③農畜産業が盛んで良質な農畜産物が生産されている」の順となっている。  
 ・10年前との比較では、大きな差は見られない。



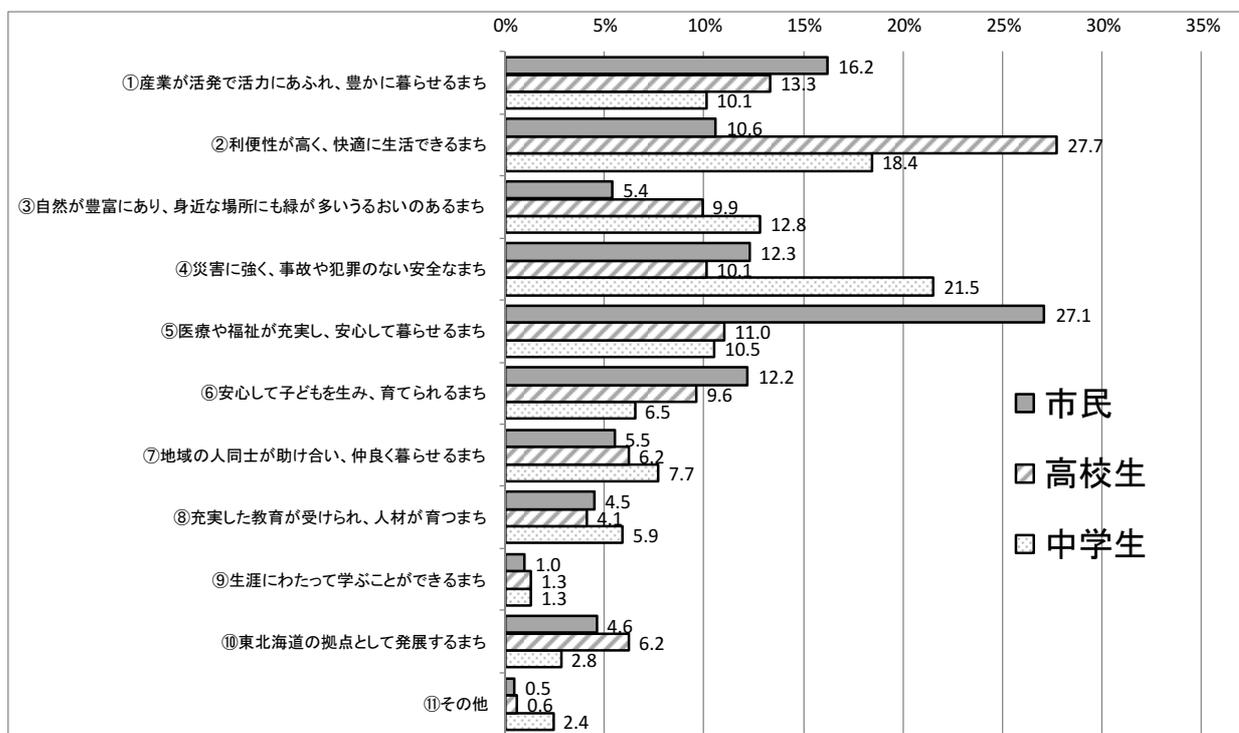
#### < 10年前との比較 (市民アンケート) >



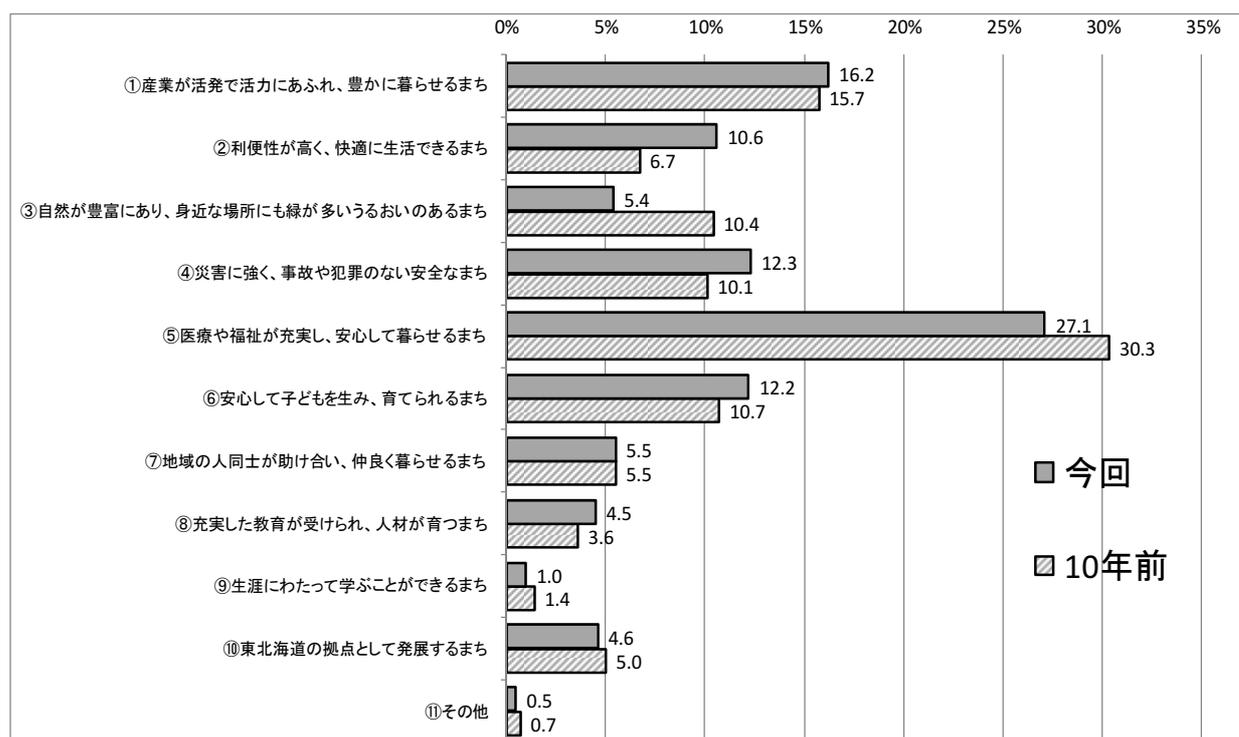
## (2) 将来のまちづくりの方向性について

**問** 帯広市は将来どのようなまちになってほしいと思いますか。

- ・市民は、「⑤医療・福祉の充実」や、「①産業振興」、高校生は、「②利便性の高さ」、中学生は、「④防災・防犯」を重視した回答の割合が高くなっている。
- ・10年前との比較では、「③自然や緑の豊かさ」の回答割合が低くなっている一方、「②利便性の高さ」や「④防災・防犯」、「⑥子育て支援」の回答割合が高くなっている。

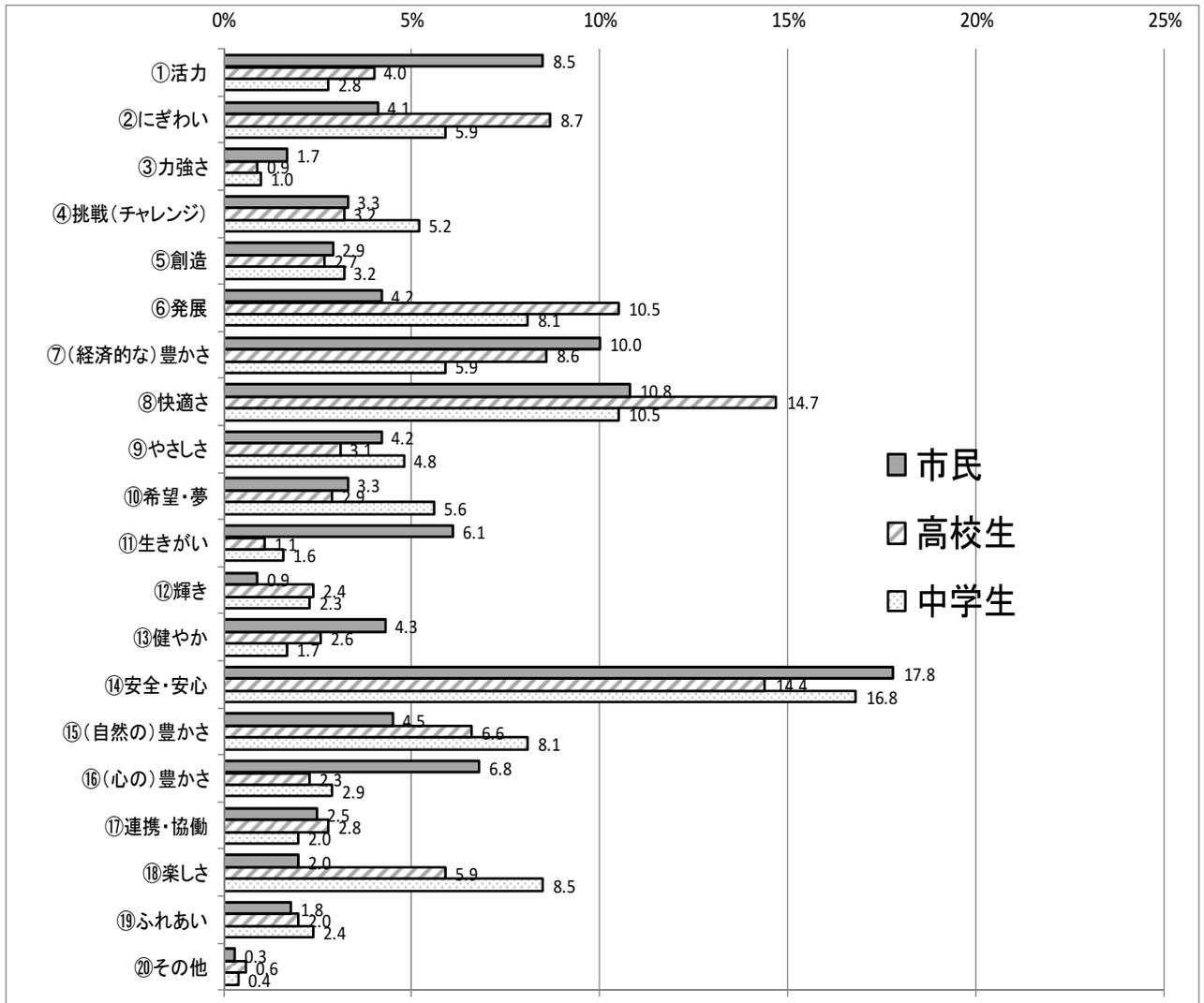


### < 10年前との比較 (市民アンケート) >



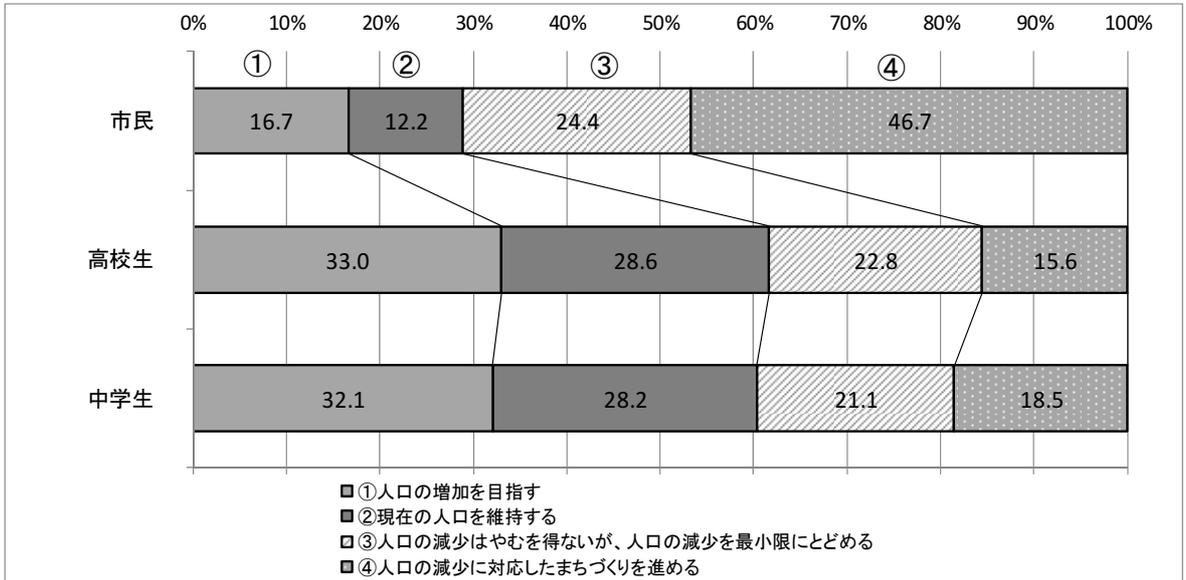
問 今後の帯広市のまちづくりを進めていく上で、どのような「言葉（キーワード）」を重視すべきだと思いますか。

- ・市民は、「⑭安全・安心」、「⑧快適さ」、「⑦経済的な豊かさ」の順となっている。
- ・高校生は、「⑧快適さ」、「⑭安全・安心」、「⑥発展」の順となっている。
- ・中学生は、「⑭安全・安心」、「⑧快適さ」、「⑱楽しさ」の順となっている。



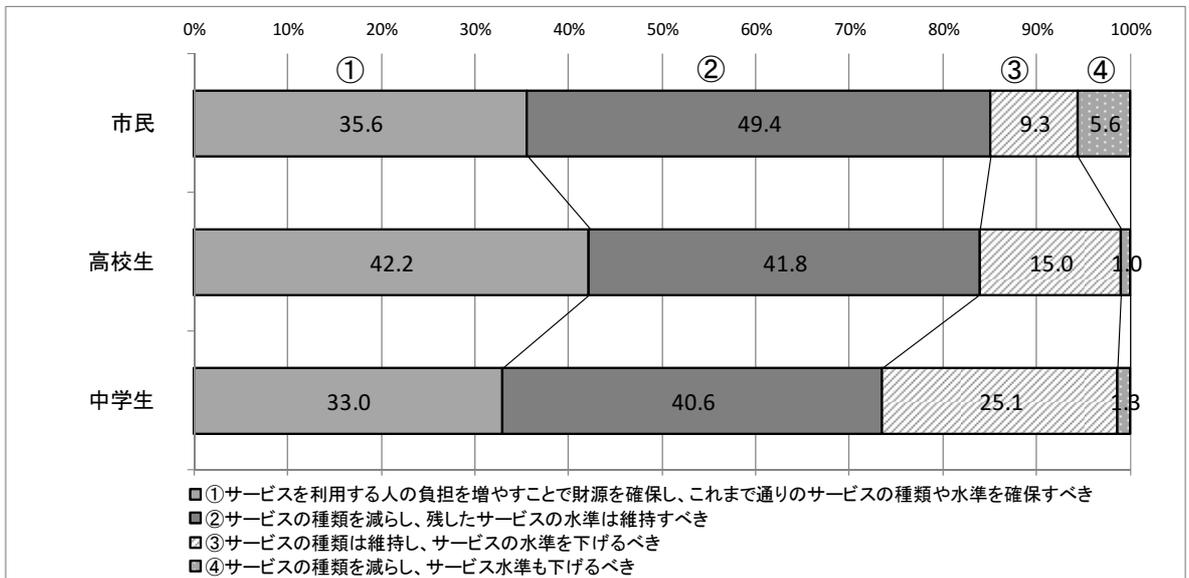
問 全国的に人口減少期を迎えており、帯広市においても、2060年の将来展望人口を2010年の人口の約22%減となる131,184人と見込んでいます。帯広市はこうした状況にどのように対応すべきだと思いますか。

・市民の約5割が、「④人口の減少に対応したまちづくりを進める」と回答している一方、高校生・中学生の約6割は、「①人口の増加を目指す」もしくは、「②現在の人口を維持する」と回答している。



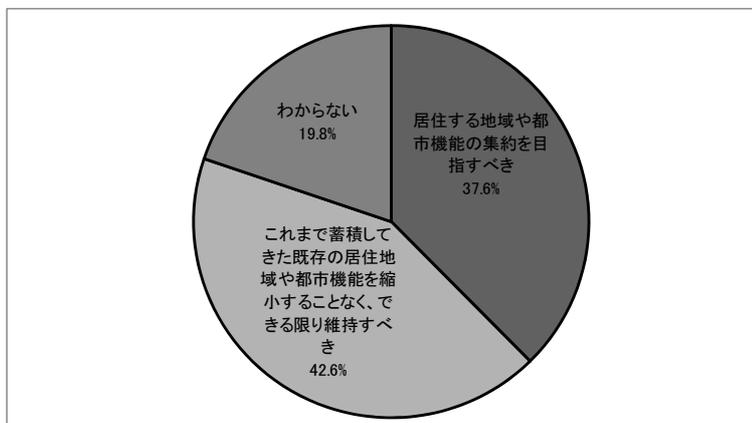
問 今後、少子高齢化の進行などにより、市の財政状況が厳しさを増していく中で、限られた財源をより効率的かつ効果的に配分し活用していくまちづくりが求められます。こうした時代を迎え、市が実施するサービスはどうあるべきと考えますか。

・市民の約5割、高校生・中学生の約4割は、「②サービスの種類を減らし、残したサービスの水準は維持すべき」と回答している。  
 ・また、高校生の約4割、市民・中学生の約3割が、「①サービスを利用する人の負担を増やすことで財源を確保し、これまで通りのサービスの種類や水準を維持すべき」と回答している。



問 帯広市はこれまで、人口の増加に伴い、郊外に住宅地を拡大し、様々な公共施設等を整備してきました。 今後、人口減少や少子高齢化が一層進むことが見込まれる中で、今後のまちづくりの方向性について、どのようにしていくべきだと考えますか。

・「居住する地域や都市機能の集約を目指すべき」と「これまでの居住地域や都市機能をできる限り維持すべき」との回答割合がそれぞれ全体の約4割を占めている。



問 今後のまちづくりにおいて、以下の表の各項目（施策）の重要度について、どのように考えますか。

・各項目のうち、「重要である」もしくは、「ある程度重要である」との回答割合が高いのは、「④保健・医療、社会福祉」、「①産業振興」、「②教育」、「⑦消防・救急」、「⑥防災・防犯」、「⑧環境保全・ごみ処理」、「⑤子育て支援」などとなっている。

・「⑮国内・国際交流」、「⑫市民協働・地域コミュニティ活動」、「⑨緑化、景観形成」、「⑭人権尊重・男女共同参画」、「⑬自治体経営」などは、他の項目と比べ、「あまり重要ではない」もしくは、「重要ではない」との回答割合が高くなっている。

